

保育博2025 マネジメントセミナー



# 食をフックに地域の親子とつながり、見守る「保育園こども食堂」

*Oisix ra daichi*

子どもたちのために、日本を変える

**Florence**

2025.11.21

## 講演に際して

### 現代の子育て世帯を取り巻く厳しい現実

昨今の社会環境は、核家族化、共働き世帯・ひとり親世帯の増加、地域とのつながりの希薄化により、子育て支援機能の低下という大きな課題に直面しています。その結果、子育ての悩みや孤立感は深まり、保育サービスには、量の増加だけでなく、専門的な質の向上が強く求められています。

しかし、業界全体を襲う保育人材の深刻な不足は、子育て支援の取り組みのハードルになっています。

### 突破口としての「食」

日々の保育の中で最も根幹的でありながら、注目を浴びるシーンは少ない。それが「食」です。「保育の質」を高める取り組みとして「食育」が重要視されています。しかし、その実践が **在園児向け** に留まり、地域とのつながりという点で限定的になってしまう傾向も見られます。

本セミナーでは、この現状を一步踏み出し、「食」を接点として活用し、地域に暮らす「無園児（保育施設を利用していない乳幼児とその保護者）」へと保育の専門性を開く新たなアプローチを提案します。

この「食」という切り口から、子育て支援のひとつの具体的な取り組みである「こども食堂」を、皆様と探求してまいります。どうぞ、最後までよろしくお願いいたします。

# オイシックス・ラ・大地について

**会社名** オイシックス・ラ・大地株式会社

**所在地** 東京都品川区大崎一丁目 11番2号  
ゲートシティ大崎イーストタワー 5F

**事業内容** ウェブサイトやカタログによる一般消費者への有機野菜、特別栽培農産物、無添加加工食品等、安全性に配慮した食品・食材の販売や、企業・官公庁・保育園・病院・老人保健施設等の給食などの受託運営や食材卸など

**従業員数** 2,021名(2025年3月31日時点)

**資本金** 3,995百万円(2025年3月現在)



**Oisix**



大地を守る会  
DAICHI wo MAMORU KAI

  
**Radish Boya**

**SHIDAX**  
未来の子供たちのために



年間**約2億7,000万食**の給食提供実績。  
60年以上給食委託事業を展開してきた  
ノウハウを活かし、効率的なオペレーション、  
付加価値の高いメニュー提案、進化する  
ニーズへの対応力を発揮します。



## すくすくOisix

2015年より保育施設向け給食サービスと  
してスタート。安心・安全な食材をお届けす  
るだけでなく、給食ミールキット、献立編集  
システム、オリジナルの食育コンテンツを充  
実させ、  
**約1,200施設**以上の運営をサポート。



## 登壇者紹介

2015年旧らでいっしゅぼーや株式会社にて、  
保育園向け食材提供サービスを立ち上げ。  
その後会社統合を経て、現在の Oisixの保育施設向け給食  
関連サービス「すくすく Oisix」の拡大をけん引。  
全国約1,200箇所を超える保育施設に「Oisix基準を満たした  
安心安全な食材」「給食ミールキット」「オリジナル献立」  
「食育サービス」などを提供している。2024年6月からはグ  
ループ会社であるシダックスの保育給食部門も管轄し、食材  
だけではなく委託分野まで幅広いソリューションを提供して  
います。



オイシックス・ラ・大地株式会社  
BtoB事業統括 グループ保育給食事業統括  
シダックスフードサービス株式会社  
保育給食事業本部 本部長代行

清水 崇司

# 認定NPO法人フローレンスについて

日本のこども・子育て領域の課題解決に総合的に取り組む  
国内最大規模の認定NPO法人

## 設立

NPO法人設立 2004年

認定NPO法人取得 2012年



東京オフィス：東京都千代田区神田神保町  
1丁目14番地1 KDX神保町ビル 3F

## 従業員数 (2024年4月現在)

794名 (派遣・業務委託・インターン・理事含め)

675名 (直雇用のみ)

日本のNPOにおいては最大規模

東京都の初代認定NPO団体

こども・子育てに関わる10以上の事業  
支援事業と共に、政策提言や文化創造をおこない、  
総合的に社会変革を推進

こどもたちのために、日本を変える

**Florence**

# フローレンスの活動および事業内容

## 事業内容

親子の「困った」に  
駆けつける

訪問型病児保育／ひとり親支援／  
多胎児家庭支援



フローレンスの  
病児保育



フローレンスの  
病児保育

～ひとり親家庭の親子支援～



フローレンスの  
ふたご助っ人くじ

保育園を地域の子育て  
伴走拠点に

小規模認可保育所／認可保育所／  
一時保育室／保育ソーシャルワーク



おうち保育園



みんなの未来を  
つくる保育園



一時保育室  
カムパネルラ

保育園子ども食堂

障害児・医療的ケア児家庭に  
もっと選択肢を

保育・家庭支援／遊び・交流の場づくり／  
保護者就労支援



Helen  
障害児保育館ヘレン



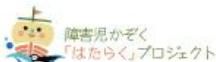
Nancy  
医療的ケアアンサーナンス



Annie  
障害児訪問保育アニー



Bell  
ハルモニアプロジェクト



障害児がぞく  
「はたらく」プロジェクト

医療的ケアおやこ給食便

伴走型支援で  
家庭の孤立を防ぐ

食品の無料お届け／  
体験機会の提供／  
全国普及推進活動／  
伴走型支援



子ども宅食



子ども宅食応援団



あやこプロジェクト  
3not

赤ちゃんの遺棄・虐待をゼロに

にんしん相談窓口／養親サポート／特別養子縁組



フローレンスの  
赤ちゃん縁組



フローレンスの  
無料産院

フローレンスのにんしん相談

新しいあたりまえを社会とともにつくる

政策提言／ソーシャルアクション

- ・国や自治体への政策提言活動
- ・企業や他団体、行政、インフルエンサーとのキャンペーン
- ・全国調査や記者会見、啓発活動等

# 登壇者紹介

## 代表理事：赤坂緑

1976年生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業。事業会社にてマーケティング・育成等を経験後、2014年1月認定NP0法人フローレンス入職。病児保育事業・保育園事業の人材育成・採用等を担当した後、事業部長を経て、2018年に役員（ディレクター）就任。現在は、全社の人材・組織開発、主に保育事業を中心とした事業運営や政策提言全般にたずさわる。二児の母。キャリアコンサルタント・保育士。



## 保育園こども食堂推進担当：岡野 優華

1980年生まれ。名古屋大学法学部卒業。事業会社にて営業・レベニューマネジメントを経験後、2021年9月認定NP0法人フローレンス入職。保育に関する政策提言担当として、保育園等に通っていない無園児家庭の調査などを実施。現在は、保育園こども食堂の事業開発や社外の団体伴走支援に携わる。三児の母。



# もくじ

## CONTENTS

01

保育を取り巻く環境の変化

02

保育園ができる地域の子育て家庭の支え方

03

保育園こども食堂とは

04

パネルディスカッション

05

本日のまとめ

SECTION 01

# 保育を取り巻く環境の変化

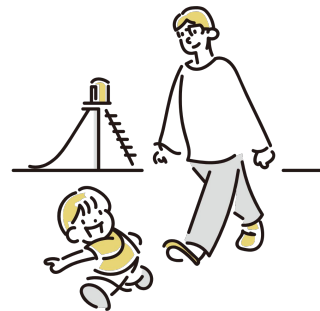
# 児童福祉・子育て支援の現状



核家族化



ひとり親世帯



共働き



地域連携の希薄化

家庭や地域が持っていた子育て支援機能の低下

「保育サービスに対する需要量の増加」

「専門的な支援への必要性の増加」

# 保育の2025年問題

## 財政難による経営不振



保育園の倒産・休廃業解散は過去最多ペース。保育園の経営改善は喫緊の課題に。

## 保育人材の不足



保育士の有効求人倍率は 3.78倍と一貫して高い比率で推移。

## 園児の獲得競争



待機児童問題が解消に向かい、次は定員割れ課題に直面。

こども家庭庁：保育所等関連状況取りまとめ(2025)

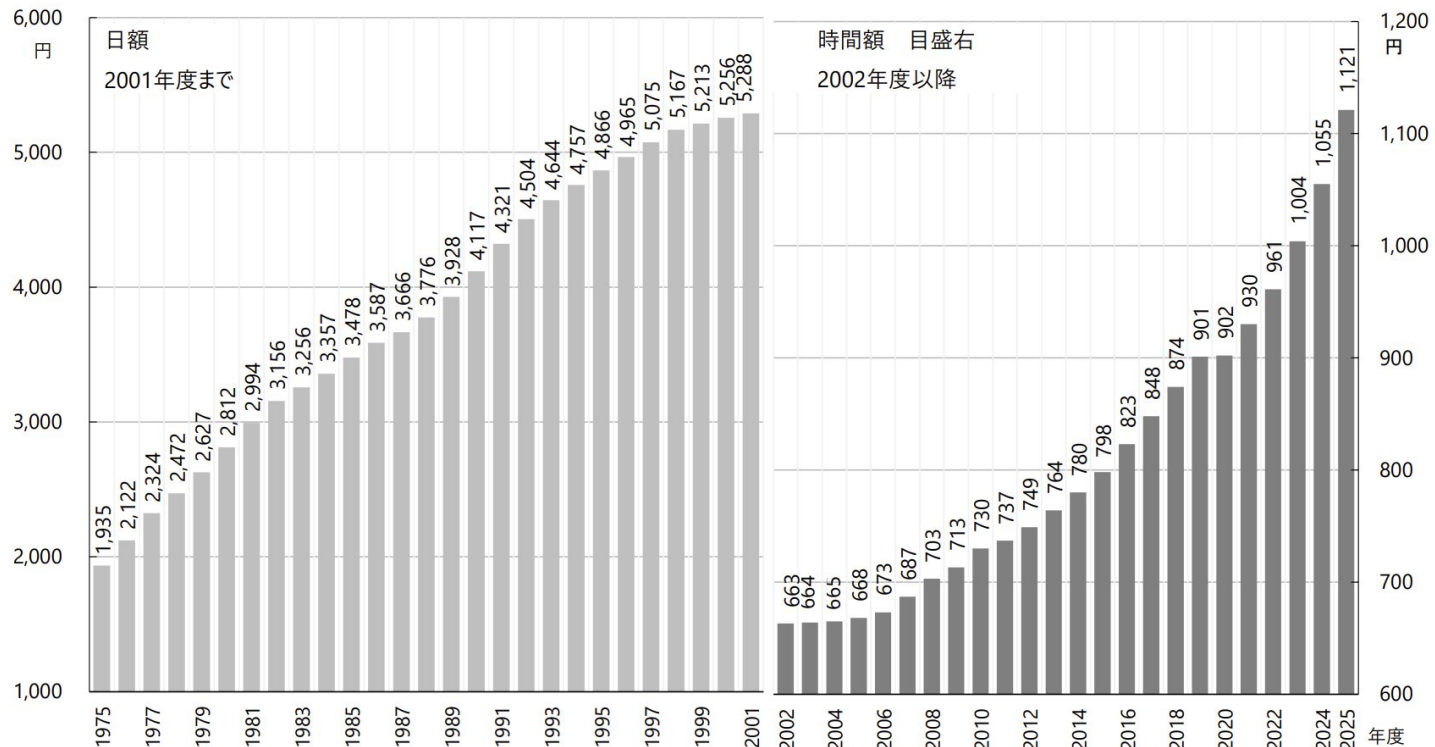
こども家庭庁：保育士の有効求人倍率の推移(全国)(2025)

帝国データバンク：「保育園」の倒産・休廃業解散動向(2025 年上半期)

# 保育の2025年問題 ~財政難の背景①~

## ■ 人件費(最低賃金)の値上がり

出典:地域別最低賃金 全国加重平均額(労働政策研究・研修機構(JILPT)2025)



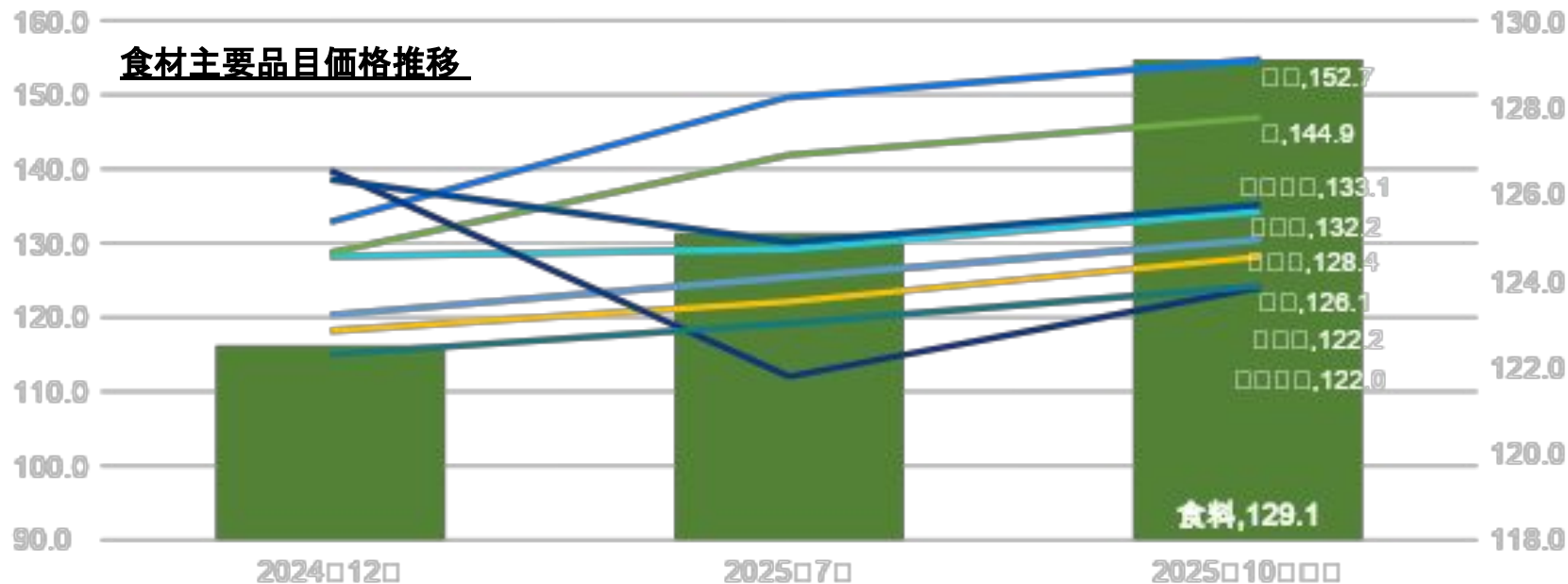
資料出所 中央最低賃金審議会目安に関する小委員会 平成16年度第1回資料及び26年度第1回資料  
厚生労働省「地域別最低賃金改定状況」

注) 各都道府県の地域別最低賃金は、2002年度から表示単位期間が時間額単独となった。

# 保育の2025年問題 ~財政難の背景②~

## ■ 食材費の値上がり

年月	食料	穀類	魚介類	肉類	乳卵類	卵	生鮮野菜	生鮮果物	調味料
2024年12月	122.5	132.9	128.2	118.2	120.3	128.7	139.8	138.6	115.0
2025年7月	125.1	149.7	129.2	122.1	125.4	141.9	112.0	130.1	119.2
2025年10月予測	129.1	152.7	132.2	126.1	128.4	144.9	122.0	133.1	122.2



# 栄養士・調理師の人材不足

保育施設の給食室を任される栄養士、調理師の有効求人倍率も全職種平均と比較してきわめて高く、給食室の人材不足解消、働き方の改善は施設運営において急務と言えます。

※職業情報提供サイト(日本版O-NET)より

ハローワーク「無期または4か月以上の雇用期間のあるフルタイム」の求人数を同条件で希望する求職者数で除したもの(実数値)。

## 全職種に対する 栄養士、給食調理員の有効求人倍率



# 保育給食における調理人員の配置基準

厚生労働省は保育施設の調理人員配置基準を定めているが、実態はアレルギー対応、離乳食づくり、従業員の休暇確保などを理由に、基準を上回る人員を配置せざるを得ない状況があります。

川崎市民間事業者活用型保育所等整備法人: 設備及び運営に関する基準(2023)  
岩手県私立保育連盟: 調理員の配置基準に関する調査(2023)

## 厚生労働省が定める配置基準

施設の定員数	調理員の配置人数
40名以下	1人
41~150名	2人
151名以上	3人

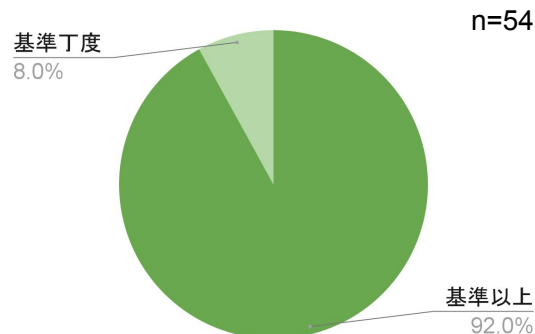
昭和51年から変化なし。

## 神奈川県川崎市の取り組み

施設の定員数	調理員の配置人数
40名以下	1人
41~60名	2人
61~150名	3人
151~240名	4人

自治体独自の配置基準を設け、調理現場のひっ迫状況を改善。

## 岩手県私立保育連盟の調査結果



岩手県では9割以上の施設が配置基準以上の人員を雇用し対応。

**調理員の確保が難しい環境で、人手不足を感じながらも配置基準通りで運営している、または、基準以上の職員を雇用しているという自治体、施設が一般的になっています。**

## 保育政策の新たな方向性

～持続可能で質の高い保育を通じたこどもまんなか社会の実現へ～

概要

○ **令和7年度から令和10年度末を見据えた保育政策は3つの柱を軸に推進する。**

1. 地域のニーズに対応した質の高い保育の確保・充実

【地域の課題に応じた提供体制の確保、職員配置基準の改善、虐待・事故対策強化 等】

2. 全てのこどもの育ちと子育て家庭を支援する取組の推進

【こども誰でも通園制度、障害児・医療的ケア児等の受入強化、家族支援の充実 等】

3. 保育人材の確保・テクノロジーの活用等による業務改善

【処遇改善、働きやすい職場環境づくり、保育士・保育所支援センターの機能強化、保育DX 等】

☞ 全国どこでも質の高い保育が受けられる

☞ 地域でひとりひとりのこどもの育ちと子育てが  
応援・支援される

☞ 人口減少下で持続可能な保育提供体制を確保



待機児童対策を中心とした「保育の量の拡大」

質の高い保育の確保・充実

全てのこどもの育ちと子育て家庭の支援

保育人材確保・テクノロジーの活用等

平成25年度

待機児童解消加速化プラン  
(目標：5年間で約50万人)

平成30年度

子育て安心プラン  
(目標：3年間で約32万人)

令和3年度

新子育て安心プラン  
(目標：4年間で約14万人)

令和7年度

保育政策の新たな方向性

令和10年度末

・待機児童は保育の受け皿整備の推進等により大幅に減少【待機児童数 H29:26,081人→R6:2,567人】

・過疎地域などでは保育所における定員充足率が低下【定員充足率 R6:全国平均 88.8% 都市部 91.6% 過疎地域 76.2%】

→ 待機児童対策を中心とした「**保育の量の拡大**」からの転換

・全てのこどもに適切な養育や健やかな成長・発達を保障していくことを求める「こども基本法」の成立 (R5.4.1施行)

→ 保育の必要性のある家庭を支えるのみならず、**全てのこどもと子育て家庭を支援することも重要に**

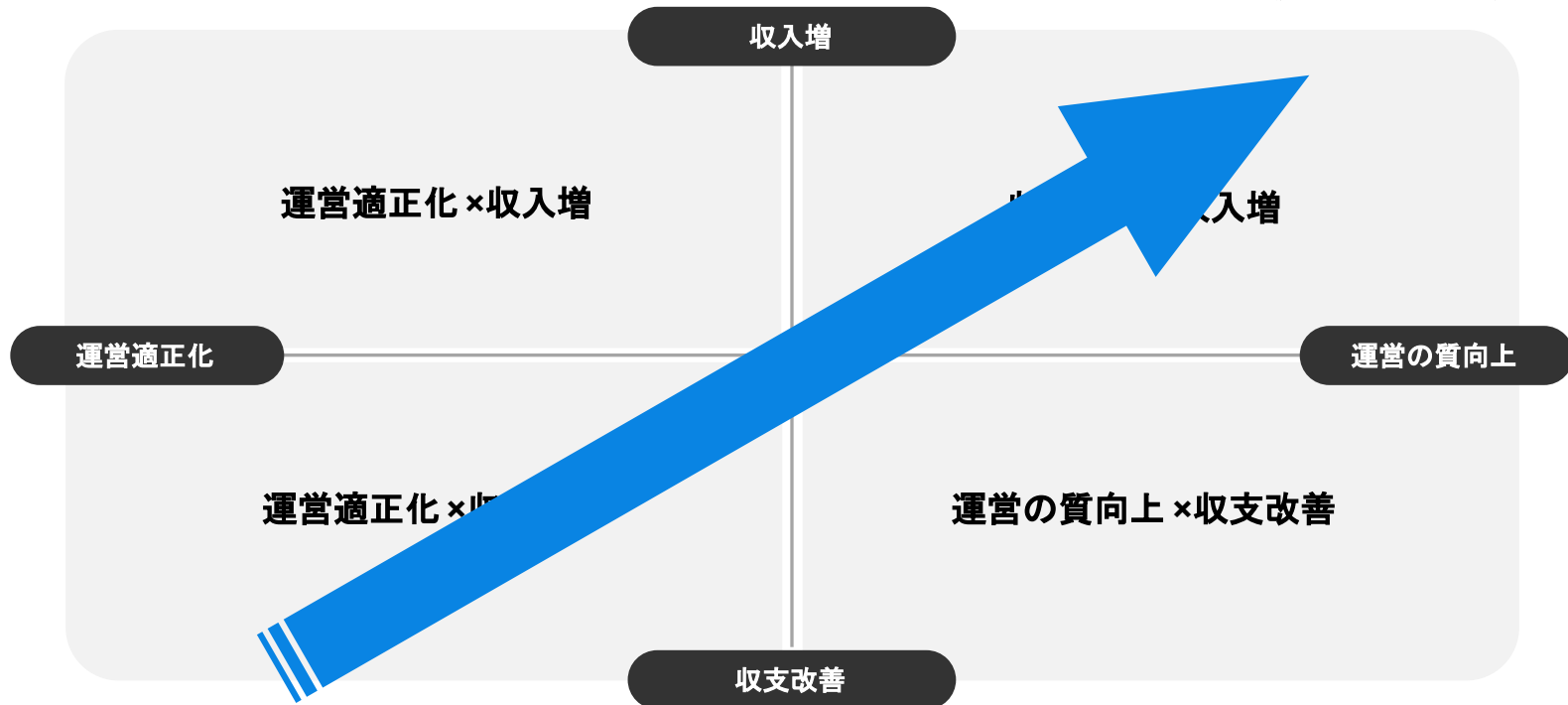
# 今後の施設運営について

様々な課題がある中で、「保育政策の新たな方向性」で示されている政策の 3つの柱

1. 地域のニーズに対応した質の高い保育の確保・充実
2. 全てのこどもの育ちと子育て家庭を支援する取組の推進
3. 保育人財の確保・テクノロジーの活用等による業務改善

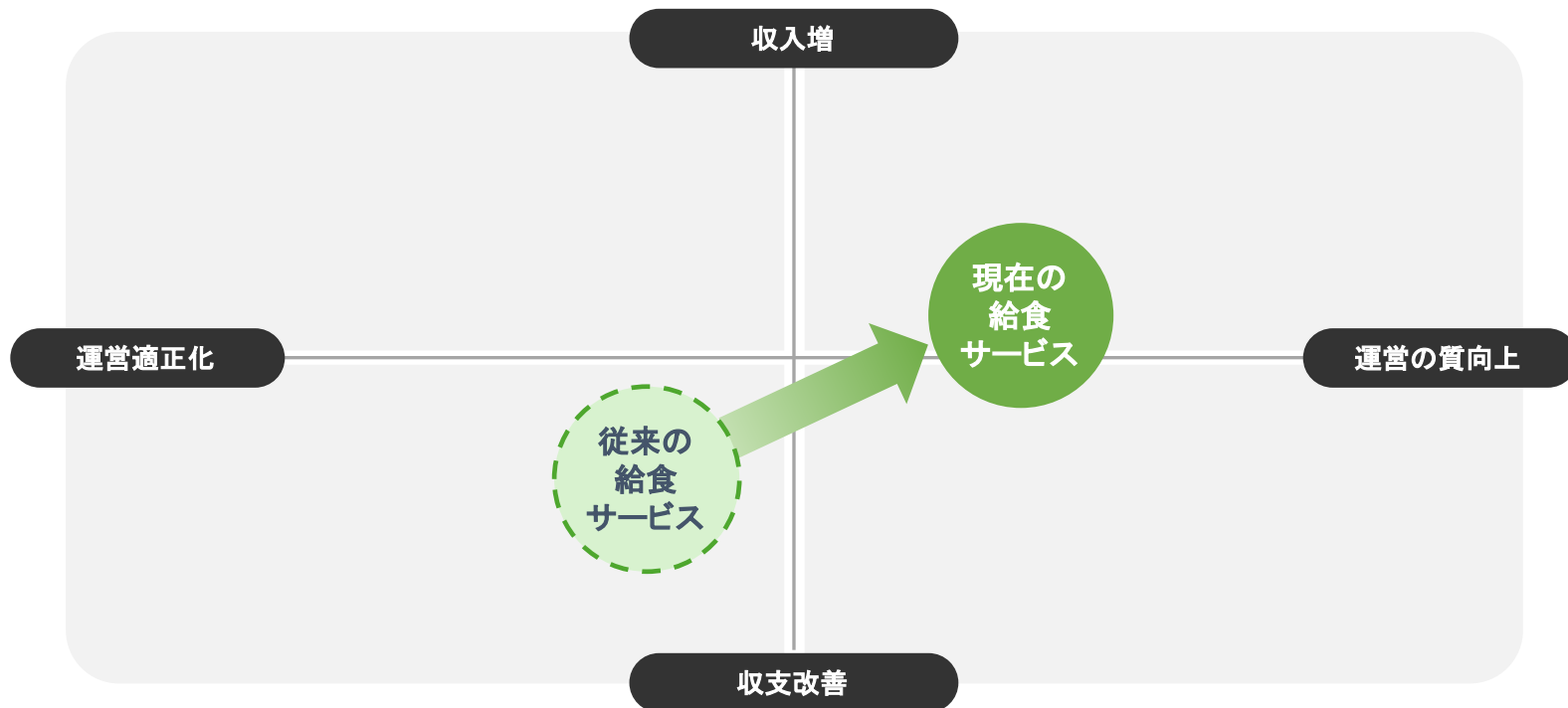
これらに応じた各種運営を進めていく必要がある。

こども家庭庁：保育政策の新たな方向性（2024）



# 給食サービスのポジション変化

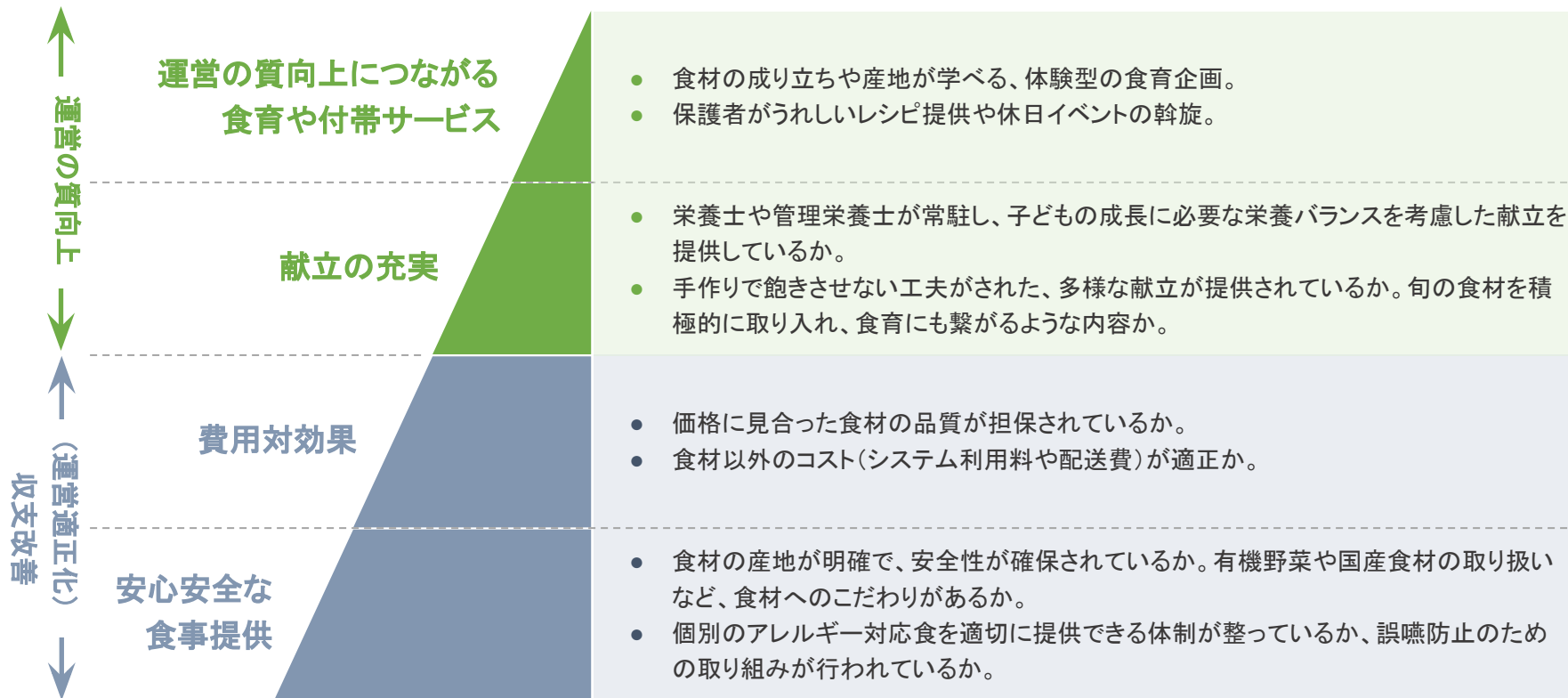
保育給食においてもこれまで捉えられ方が変化してきています。  
運営の適正化だけでなく、食で **園運営の質をいかに向上するか** も大きなポイントです。



# 給食サービスの差別化ポイント

安心安全な給食を予算内で提供することは運営適正化の必須条件。

加えて、運営の質向上のために **園児や保護者が嬉しい付加価値** を提供できる園が望ましい。



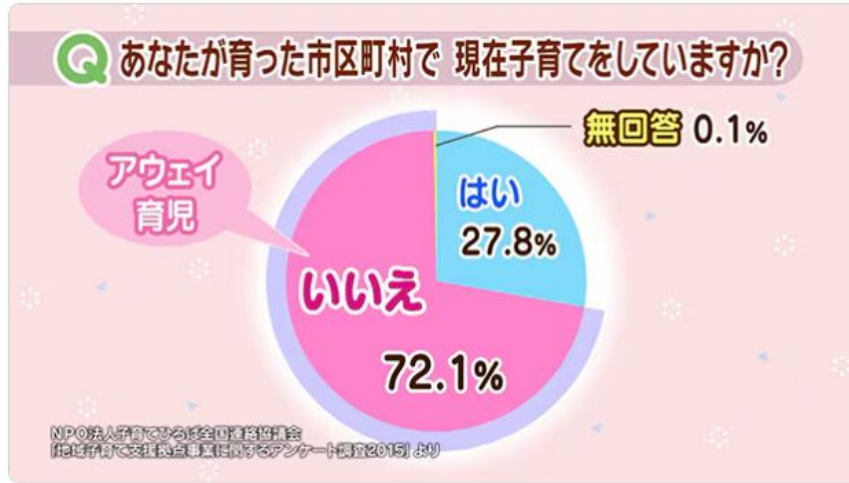
SECTION 02

保育園ができる地域の子育て家庭の支え方

# ~現代の子育て家庭の状況~

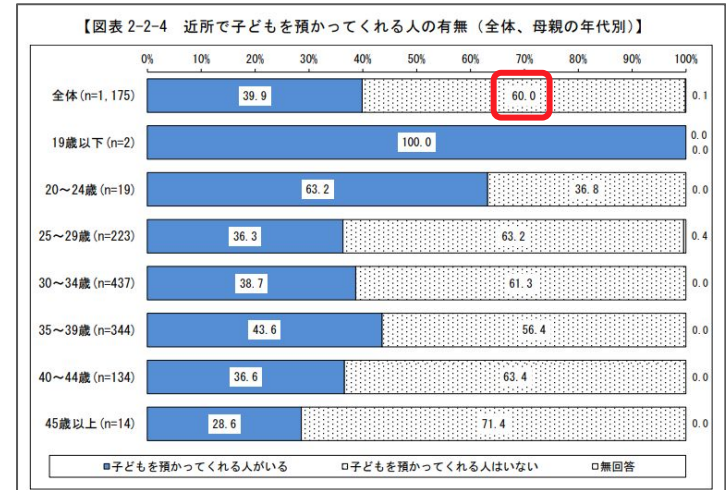
# 現代の子育て家庭の状況

## 核家族化や地縁（地域のつながり）減少で 周囲に頼れる人がいない”孤育て”家庭が増加



「頼れる人のいない子育て～アウェイ育児の乗り越え方～」NHK（2023年12月2日放送）  
<https://www.nhk.jp/p/sukusuku/ts/DNYRMZW5Q1/episode/te/EJNO5JPYM3/>

- 7割の母親が生まれ育った場所を離れて育児をしている

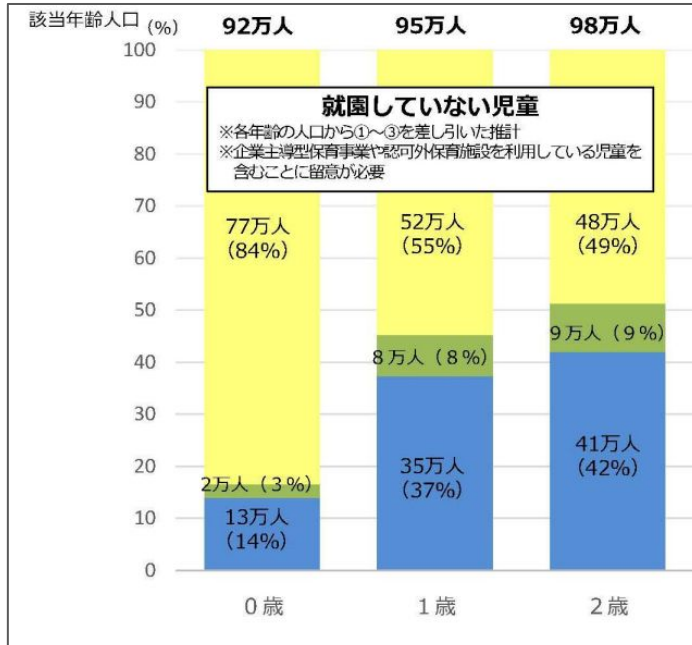


「地域子育て支援拠点における「つながり」に関する調査研究事業 報告書」NPO法人子育てひろば全国連絡協議会（2017年）

- 6割の母親は近所で子どもを預かってくれる人がいない

# 現代の子育て家庭の状況

## 0～2歳の多くは保育園等に通っていない「無園児（未就園児）」



- 0～2歳児の多くは、保育園や幼稚園などに通っていない「未就園児」で、特に、0歳児の84%は家で過ごしている。
- つまり、0～2歳児家庭は地域の社会資源とつながりにくく、支援が不足している。

# 子育て家庭の現状を踏まえ地域に求められること

## 妊娠期から子育て家庭を地域で見守るための体制整備が全国での課題

国の調査資料によると…

- こどもの虐待の増加（特に虐待死は低年齢で発生）
- 深刻化する子育て家庭の孤立

上記に加えて…

- 少子化の加速による地域の人口減少
- 少子高齢化による支援者・NPOなどの人手不足



こどもを産み、育てやすい街の実現は、**地域の活性化や持続性につながる**  
**かつての日本のように「社会全体でこどもたちを見守り、育てる地域」を**  
**地域の支援者・市民がみんなでともに実現することが求められている**

**地域共生社会**

## <これからの日本・地域が目指す社会>

かつての日本のように「社会全体でこどもたちを見守り、育てる地域」を  
地域の支援者・市民がみんなとともに実現する → 地域共生社会



## <仮説>

子育て世帯に早い時期から広く接点のある地域の支援者 = **保育園**が、  
**地域コミュニティと親子をつなげる**役割を担えるのでは？

~国や自治体から保育園に期待される役割と  
保育現場の悩み~

# 保育園はすべてのこどもの育ちを支える施設へ

すべてのこどもに開かれた施設として保育園の役割が広がっています

## こども誰でも通園制度

- 親の就労状況に関わらず、**すべてのこども**が保育園に通うことができる制度
- 「すべてのこどもの育ちを応援する」理念を掲げる
- 就労家庭のための施設から**すべてのこどもに開かれた施設**へ、保育園誕生から130年、歴史的転換点を迎えた

## インクルーシブ保育の広がり

- **年齢、国籍、障害の有無**などに関わらず、すべてのこどもと一緒に過ごす保育
- 多様性を受け入れ、こども一人ひとりの個性やニーズに応じた支援を行う
- 従来の保育施設では受け入れることが難しかったこどもにも**保育の受け皿が広がる**

# 保育園の地域への想いと可能性

親子を取り巻く社会環境の変化から、  
「地域へ支援を広げていきたい」想いを抱く保育園があります

少子化

核家族化

ご近所付き合い  
の減少

都市化

祖父母の就労

家事育児の  
両立が負担

ひとり親

晩婚化

社会環境が変化し、地域には周囲に頼ることができず、孤独な親子がたくさんいます。

地域の親子のために、保育園ができることはないだろうか…？  
と考えています。



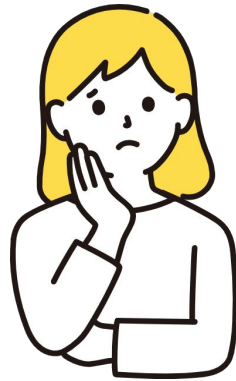
保育園の園長

# 保育園が抱える悩み

一方で、想いはあっても  
地域の子育て支援に取り組むハードルは高い

地域支援に取り組みたいが、  
誰に相談すればいいかわからない

慢性的な人手不足で  
在園児の対応で手一杯



保育園の園長

ノウハウがなく、  
何から始めればいいのかわからない

SECTION 03

「保育園こども食堂」とは

# フローレンスによる「保育園こども食堂」のとりくみ

- ・ 園長が、近くに頼れる知り合いがおらず孤独に育児をしているご家庭の存在に気づき、地域の子育て家庭にも支援を届けたい！という熱い思いから、こども食堂を開始（2019年）
- ・ 支援が届きにくい「医療的ケア児」のご家庭向けにお弁当を届ける「おやこ給食便」を開始（2022年）
- ・ 保育園こども食堂への参加をきっかけに、一時預かりの利用、入園へと至ったケースも



# 「フローレンスの保育園こども食堂」の大きな反響

(利用者の声)



妊娠中でご飯の用意がしんどかったので、大変助かりました。

ご飯の準備の時間を他の家事に回せて負担がかなり減りました。一生懸命つくったご飯で遊ばれたり食べなかったりする  
とイライラする事がありますが、余裕を持って接することができます。

親子食堂で同じ子供を持つもの同士  
関われるのが、本当にありがたいです。地域に自分の居場所があるっていう安心感という感じでしょうか。

母子生活支援施設入居者を含む、地域の多くの親子のご利用あり

# 「保育園」と「こども食堂」それぞれの良さの掛け合わせ

## 保育園 × こども食堂の連携が生み出す相乗効果

こどもの発育に詳しい  
保育の専門性を活かした  
保護者支援  
(子育て支援)

保育園



- こどもの発育支援
- 保護者の育児支援
- 栄養バランスとれた食事の提供（給食）
- こどもの食育

こども食堂



- こどもの居場所（孤食を防ぐ）
- 地域間(多世代)交流の促進
- 食事提供による経済的貧困支援
- 地域の見守り機能

こどもを中心とした  
地域住民の居場所

食事をフックに、在園児にかかわらず、地域の親子が保育園に安心して訪れることができる

# 保育園こども食堂の「子育て支援効果」

保育園こども食堂は、保護者の悩みに寄り添う「保護者支援」に強み

子育て相談



こどもの発育や発達について悩みを抱えやすいが  
相談できる人がいない

保育士や栄養士などの専門家がご家庭の悩みに寄り添う

「孤育て」解消

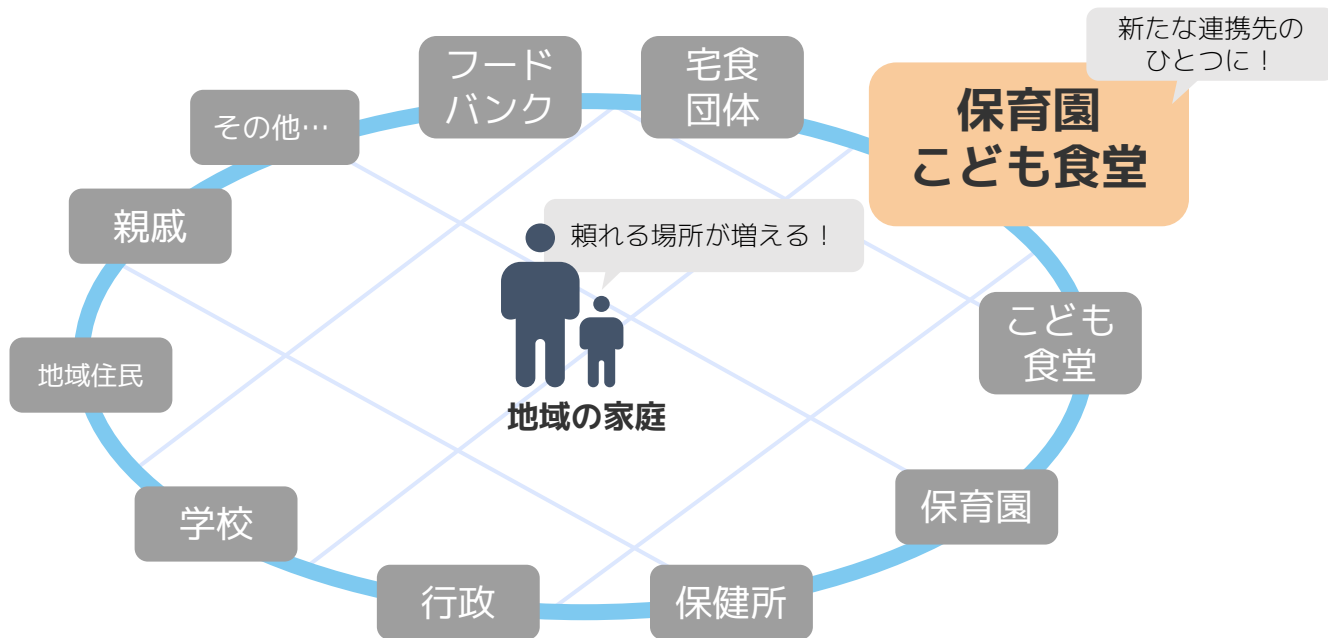


朝から晩まで家に子どもと2人きり。  
「孤独を感じる。誰かと会話したい」

子どもを看ながら大人同士の会話を楽しんでもらう

# 「保育園こども食堂」が地域にもたらす効果

多様な食支援の担い手が増えることで、地域住民の新たな居場所が増え、地域の支援団体の新たな連携先になります



# 保育園こども食堂事例①

食支援活動をきっかけに多機能化し、地域支援を広げる保育園

の事例



- 精神疾患がある保護者、産後うつのご家庭は家事や育児に手が回らない、外出が難しいなどの課題があることに気づき、お弁当を届ける宅食を開始。
- 不登校児の居場所作りのため、イートインこども食堂も開始。こどもたちは、食堂の運営にも積極的に参加。
- 精神疾患の保護者をこども食堂の調理ボランティアとして巻き込み、外での活動や人との交流機会を増やす。就労へつなげる構想も。

※詳細はフローレンスNEWS記事をご覧ください

「【事例紹介】食でつながり地域の親子を支える～多機能化が止まらないHUG保育園の「ふじのきこども食堂」～」(<https://florence.or.jp/news/81233/>)

# 保育園こども食堂②

## 外出が難しいご家庭にアウトリーチ型でつながるキッチンカーこども食堂

## の事例



- 医療的ケア児のインクルーシブ保育に取り組む保育園が、日頃から連携している病院と連携し、出張型こども食堂を実施
- 外出が難しく孤立しがちな医療的ケア児家庭が多く通院・入院している病院に出向きアウトリーチ型の食支援に挑戦
- 食事後に立ち寄り可能な相談ブースを設け、医療的ケア児家庭はもちろん、そうでない方の子育て相談にも看護師や保育士が対応。

※詳細はフローレンスNEWS記事をご覧ください

「【事例紹介】キッチンカーで保育園こども食堂を開催！アウトリーチ型で支援を届ける「おれんじハウス反町園」」(<https://florence.or.jp/news/80826/>)

# 地域団体と保育園の連携事例①

地域のこども食堂



保育園

が実践するこども食堂の事例



- 小学校区ごとにこども食堂をつくりたいと考えていた**地域のこども食堂ネットワーク**と地域のご家庭向けにこども食堂を始めたいと考えていた**保育園**が連携
- 地域のこども食堂は**食堂の運営全般を担当**
- 保育園は**場所の提供、利用者への周知、ボランティアスタッフの派遣**を行う



- **こども食堂の周知先が増加**
- 「保育園」という場所の安心感から**今まで利用がなかった家庭の利用にもつながる**  
⇨利用者層の広がり



SECTION 04

# パネルディスカッション



## QUESTION 1

地域ニーズ(保護者や地域の課題)を、  
保育所はどのように察知していけば良いのでしょうか？





## QUESTION 2

保育所がこども食堂を開きたいと思った際、  
まず何から始めればよいでしょうか。





## QUESTION 3

保育所と地域のメリットと、  
継続していくために気をつけたいポイント  
を教えてください。





## QUESTION 4

こども食堂を開いてみたけれども、  
運営が上手くいかなかったケースはありますか？





## QUESTION 5

フードパントリー事業と通ずるものはありますか？



SECTION 05

本日のまとめ

## 本日のまとめ

- **地域ニーズのヒアリングと運営の目的を明確に**

はじめに開設の目的を明確にすることを心掛けると良いと思います。  
地域との関わりにおける変化やスタッフのやりがいを可視化しやすくなります。

---

- **スモールスタートで始める**

月に1回、簡単な食事からでもOK。在園時家庭も含めた会を重ねることで、  
徐々に在園時以外の参加者の割合も増えていくと思います。

---

**「在園児のための施設」から「地域の親子みんなのための施設」に。  
食をフックに子育て支援事業をはじめませんか。**

---